

平成30年度事業報告

足羽福祉会

(社会福祉事業)

啓明児童クラブ

上文殊児童クラブ

足羽東こども園

足羽ワークセンター

スマイル

カラフル

足羽サポートセンター

パステル

足羽学園

足羽更生園

あすわ相談支援事業所リアン

あすわ地域生活支援センター

あすわ児童発達支援センター

愛全園

足羽利生苑

グループホーム美山

(公益事業)

福井大東包括支援センター

福井市障がい者基幹相談支援センター

1. サービスの質向上「利用者様と共に」

(1) 人権尊重とサービスの標準化 ～新たな取り組み～

① 接遇マニュアル

法人内における接遇の標準化を進めるため、検討委員会を重ねる中で、接遇の指針となる接遇マニュアルを整備、新卒中途採用者に親しみのもてるマニュアルを作成しました。



新任職員 24 名対象の接遇研修

② 接遇トレーナーの養成

2 名の新任トレーナーが新任研修、フォローアップ研修に中心にかかわることで研修担当者に厚みが増しました。



マニュアルに準拠したお辞儀

③ 接遇トレーナーの施設外派遣

他法人との交流を契機に平成 30 年 8 月には 2 回に分けて「文殊福祉会」に接遇トレーナーを講師として派遣。研修打合せを通じ、新たにテキストを作成、約 40 名の聴講生に好評でした。



足羽福祉会オリジナルテキスト

適宜新たな企画を取り入れ更新

(2) 取り組みのアウトプット（社会に発信する）

～ 活発に意見が飛び交う第 10 回サービス実践報告会（記念大会）～福井県自治会館

① 地域資源と位置づけた公開セミナー

当法人職員のみならず、本会を広く公開することで、当事者、福祉・教育機関、地域団体を始め、一般の方が参加しやすいプログラムを構成（3 部門）、参加者約 150 名のうち地域、関係機関、学生等、当法人職員を除き約 60 名の参加がありました。



1 部 基調講演（市民公開セミナー）
「豊かに暮らす、地域で生きる」
講師：中央共同募金会常務理事
渋谷篤男氏



2 部 サービス実践報告会
「児童」「障害」「高齢」の 3 分科会

② 多様な媒体を活用した広報

県内福祉法人、教育機関、福祉・地域団体等に対してダイレクトメール、FM 福井「虹いろ輪舞曲」にて放送、利用者様作品展内告知。また学校訪問の際にはポスター掲示のご協力をいただきました。



3 部 グループ 毎の気づきの発表
「明日からできること」



利用者作品展内の大会広報
於：アオッサ福井市地域交流プラザ

③ 後援協力の呼びかけ

福井県社会福祉協議会、福井県共同募金会、福井市社会福祉協議会、福井新聞社の 4 機関にご後援いただきました。

2. 地域貢献「地域と共に」

(1)福井しあわせ元気国体、大会への協力

参加選手、利用者様の応援

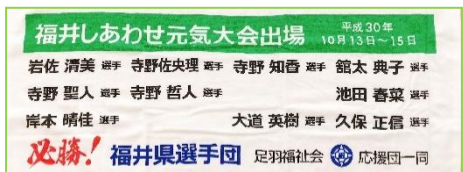
- ・大会当日を迎えるにあたり、応援グッズの準備、各施設に横断幕を掲示しました。
- ・法人内職員で応援団を結成、選手の試合日程に合わせて現地にて応援を行いました。(125名派遣)

国体 PR 商品の開発、販売会の実施

足羽サポートセンターにて大会マスコットキャラクター「はぴりゅう」のキャラ弁をはじめとした14種のメニューを開発し、開会式会場にて販売会を行いました。



応援団の様子



応援タオル（しあわせ元気大会 ver）



はぴりゅうキャラ弁



販売会の様子



激励会の様子（職員研修センターにて）

(2)足羽川ふれあいマラソン大会の運営

地域貢献、ボランティア育成事業としてマラソン大会を運営、今大会で7回目となりました。応募ランナー総数は2554名。ボランティアの参加も約400名(中学生82名、高校生101名含)となりました。

目的
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の枠組みを越えた交流を行う ・ボランティアを通じて社会福祉への理解促進 ・運営を通じてボランティアが活躍できる機会の創出
社会貢献型のマラソン大会
<ul style="list-style-type: none"> ・参加費の一部、総額223,900円を、県内の障がい者スポーツ3団体に贈りました。



スタート時の様子



ボランティアの方々

3. 人材の確保・育成・定着「職員と共に」

(1)採用実績

平成30年度の採用者数は右表の通りです。約16%が新卒採用、約84%が中途採用でした。

配属事業所別では児童福祉事業所3名、障害者福祉事業所21名、高齢者福祉事業所19名、法人本部事務局1名となっています。

平成30年度 採用者数

新卒採用者（人）	7	
中途採用者（人）	正職員	14
	臨時職員	5
定時職員	18	
全体（人）	44	

(2)職員が輝ける職場を目指して

あすわ女性推進会議（L☆会）

L☆会では職員のキャリア形成における現状分析や課題の整理を行いました。福井県の輝く女性として足羽福祉会職員が「平成30年度ふくいグッドジョブ女性表彰」に選ばれ、月刊ウララ4月号で紹介されました。

また、子育て世代職員の相互交流を目的として平成29年より実施している「きらきら会」を継続し、平成31年2月に親子クッキングとミニコンサートを開催しました。職員14名とお子さん17名が参加し、交流を深めました。



きらきら会の様子

法人内託児所「ひまわり」

平成30年度は11名の新規利用申し込みがありました。年間で延べ人数2,563人の乳幼児が利用しました。



託児所ひまわりの様子



新人事労務管理制度検討プロジェクト始動

新制度導入に向けて、平成30年度は16回の検討会議を実施しました。「等級制度」「評価制度」「報酬制度」の3つの柱を中心に議論を行っています。足羽福祉会の職員として、一人ひとりが成長を感じることでできる制度を目指しています。平成31年度も引き続き検討会議を実施します。

4. 広報戦略「もっと魅力を知っていただく」

(1) 各種メディアを活用し、法人の魅力を発信



NEXT 就職戦線 **企業の星**
 ~わたしの未来予想図~
 《愛全園 佐伯介護員》
 (FBC テレビにて放映)



就職情報サイト **indeed**
 (足羽福祉会法人本部、足羽学園、
 足羽更生園、愛全園)



福井テレビ求人情報サイト
ジョブチャンネル掲載中
 (足羽福祉会、スマイル、足羽学園)



ホームページ「先輩職員の声」
 「採用情報」リニューアル
 (2018年10月)

※下半期 ページ訪問者数
前年同期比 151%



月刊 **URALA**
 2019年4月号(足羽利生苑 西田課長)
 2019年4月号(愛全園 松井主任)

URALA 就職情報誌「fun!」
 (パステル 織田支援員、
 フレンズあすわ 宮下児童指導員、
 愛全園 三田村介護員)

- ・虹いろ輪舞曲(ロッド) (FM 福井にて放送 2018.11.26、2018.12.3)
- ・福井新聞求人広告
- ・福井新聞冊子「福井でかなえる Dream」
- ・学校訪問 (大原学園、福井県医療福祉専門学校)

機関誌「愛道」ふくし広報コンテスト最優秀賞受賞



一般の方に広く「福祉」を知っていただくために、
 機関誌「愛道」を年3回発刊しました。福井県社会福祉協議会主催「ふくし広報コンテスト」にて、最優秀賞を受賞しました。

社内報「てとて」創刊



職員一人ひとりが「て」を取り合っていく職場であり続けたいという思いを込めて、社内報「てとて」を創刊しました。

「職員」という人的魅力にクローズアップした記事や職員からの投稿ページで構成されています。

データで見る足羽福祉会

見学受入れ者数 **850** 名

福祉施設のことを知っていただくため
施設開放などに取り組んでいます。



ボランティア受入れ者数 **1,479** 名

地域の方々からも年間500人以上の
サポートをいただいております。



実習・インターシップ受入れ者数

236 名

福祉の道に進むために必要な実習や
福祉の現場の魅力をお伝えしています。



地域とのつながりのあるイベント等の回数

「招く」**395** 回、「出向く」**251** 回

毎年多くのイベントを開催して
福祉に対する理解を深めています。



外部に講師派遣した職員の人数(延べ)

81 名

福祉サービスの技能向上と理解を深める
ために外部への職員派遣を行っています。



外部研修に派遣した職員の人数(延べ)

607 名

職員の質向上のため、積極的に職員向け
の研修を開催しています。



(就労支援)議会食堂あすわを利用した
顧客数(提供食数)+弁当販売数

顧客数:**7,822**名 弁当販売数:**3,940**個



(就労支援)就職につながった障がい者数
ジョブコーチ+就労移行)

法人内:**1**名 法人外:**6**名



西日本豪雨災害義援金
(H30.9.7 共同募金会へ)

109,431 円



<平成 30 年度 年間件数>

事故件数 722 件 苦情件数 38 件

ヒヤリハット件数 341 件



福祉サービス
第三者評価受審回数
2012.4~2019.4

足羽東こども園 2回
足羽更生園 2回
スマイル 2回
愛全園 3回
足羽学園 2回
足羽利生苑 3回

2019.4.1 時点 職員数等データ表

	男性	女性	【合計】	% 人員割合	歳 平均年齢	年 平均勤続
合計	162	351	513	100.00	44.2	08.06
正職員	113	243	356	69.40	38.2	09.03
臨時職員	19	11	30	5.85	61.3	10.07
嘱託職員	3	1	4	0.78	64.0	13.06
定時職員	27	96	123	23.98	56.7	05.09
人員割合 %	31.58	68.42	100.00			
平均年齢 歳	46.8	43.0	44.2			
平均勤続 年	09.06	08.01	08.06			

啓明児童クラブ

行事を通して地元住民の方々の理解と協力を得られるような企画立案を行い、活動を展開しています。また年2回の運営委員会を通して、地域、学校との連携強化を図り、掲示用おたよりを美山地区6カ所に毎月掲示したり、ホームページの活動写真を毎月掲載したりして、地域の方々に活動内容を広く周知しています。

地域との連携

- ・児童クラブを知っていただくための半日体験イベント『Welcome Day』を、年1回開催しました。
- ・ハロウィンの仮装をして、美山啓明小学校、森林組合加工場、上宇坂郵便局、グループホーム美山、J A福井、東消防署美山分署、美山公民館の協力のもと、美山地区を歩いて回り、地域の方々とハロウィンイベントを楽しみました。
- ・地域の児童館、美山公民館、グループホーム美山で季節に応じたイベントを開催し、学校との連携も取りながら地域の方々との交流を図りました。
 - ①公民館の行事参加（文化祭展示、クリスマス会）
 - ②児童館との交流（上文殊児童クラブ：福井市美術館でキーホルダー作り、すぎのこ児童館：ミステリー会、グループホーム美山で収穫祭）
 - ③グループホーム美山 訪問（七夕飾り、お茶会、収穫祭）
 - ④学校との連携（春休み前後、夏休み後、その他こまめに連絡）



充実した遊びの提供

子どもたちは、遊びを通して自主性や社会性、創造性を培い、社会に出る土台作りをしています。和室、保育室、ホール、体育館、園庭、校庭を使い、それぞれが充実した遊びになるよう支援しました。

- ①子どもたちの気持ちに寄り添ったかわり、個別支援（和室では宿題、保育室ではおままごと、レゴ、工作、ホールでは10分区分切りで希望を聞いてドッチビー、大縄、風船バレーなど体を動かす遊び）を行いました。
- ②子どもたちが仲間を作りながら、自発的に遊びを作り出し、主体的に遊びができるよう支援しました。遊びや生活の中で生じた意見や対立について、お互いの考え方の違いに気づき、葛藤の調整や感情の高ぶりを和らげるように支援しました。
- ③発達に応じた主体的な遊びの支援を行いました。

次年度に向けて

- ・「気がかりな児童について」の研修参加、またその情報を共有します。
- ・職員の専門性を高め、サービスの向上に努めます。
- ・学校、家庭との連携を、より一層密に図ります。

事業内容：放課後児童健全育成事業

利用児童 29名（長期休業中のみ 10名）

所在地：福井市朝谷町 1-20 美山啓明小学校 内 美山啓明幼稚園

管理者名：岩本昌雄

上文殊児童クラブ

サービスの質向上「利用者様と共に」

職員は、児童と楽しく活動する中で信頼関係を深めると共に、保護者の要望や問題に対して都度対応しました。日々の丁寧な対応が、保護者の安心と就労支援につながりました。

学校休業日には活動計画に沿い、地域公共施設(上文殊公民館、小学校他)を活用し、子どもたちが楽しく過ごせるよう配慮しました。



地域貢献「地域住民との積極的なかわり」



児童が老人施設を訪問し、お年寄りや職員の方と一緒にゲームや会話を楽しみました。交流を通し、目上の人に対するかかわり方、話し方なども学ぶことができました。また地域の行事には、職員が地域の一員として参加し、行事を盛り上げる中で、住民やボランティアとのかかわりを深めました。



またボランティアを受け入れ、児童の活動充実、福祉人材の育成につながりました。平成30年度は、サマーボランティア1名、読み聞かせボランティア1名(延べ6回)の申込がありました。読み聞かせ活動を通し、子どもたちの本に対する興味や関心にもつながりました。今後も継続を希望しています。

法人施設との連携「合同での活動や情報共有や意見交換」

啓明児童クラブや足羽東こども園の職員との合同会議を行い、児童クラブの状況について情報交換を行ったり、長期休業日における企画を話し合ったりして、実践につなげました。他地区の小学生や異年齢児との交流を通し、子どもたちがいろいろな友だちと積極的にかかわる姿が多く見られました。



次年度に向けて

引き続き、地域や法人施設と連携し、放課後や長期休業日に、児童に安全で安心な場所と楽しい活動を提供し、保護者への就労支援を行っていきます。

事業内容：放課後児童健全育成事業

利用児童 18名(長期利用児を含む)

所在地：福井市生部町 36-6

管理者名：永松 真

足羽東こども園

子どもたちの自発的な遊びを大切にした教育・保育活動の展開

年間を通し、子どもたちが自ら考え、意欲をもって取り組む、教育・保育を実践したことが「学びに向かう力」の育成につながりました。特に「自然遊び・環境の工夫」について、活動事例や気づきを紹介し学び合うことで、保育者自身の保育力が向上し、より良い活動へ展開する様子が見られました。また子どもたちの成長や生きいきとした姿から多く保護者から喜びの声が聞かれました。



地域の行事や活動に積極的に参加



地域行事や会議に参加し、地域住民との交流を図りました。子どもたちやその家族、職員の参加により、行事が盛り上がり、地域活性の一役を担うことができました。また公共施設やそこで活動する人たちとのふれあいを通し、子どもたちは豊かな生活体験を得ることができました。地域に積極的に出向いたり、情報を発信したりすることで、地域のこども園の活動に対する理解が一層深まりました。(地域行事への参加 14 回、地域を招いた活動 4 回)

職員の育成支援策の充実

職員のキャリアアップを目指した外部研修への参加、園内研修の充実を図りました。

外部研修は処遇改善Ⅱにつながる中堅職員の研修や職員が希望し、個々のスキルアップに役立つ実技研修、子どもの成長につなげる外部研修 40 講座、キャリアアップ研修 6 名参加、園内研修 10 回実施しました。

次年度に向けて

引き続き、自発的活動に重点をおいた教育・保育を展開し、子どもたちが遊びを通して「主体的に行動できる子」への成長につなげます。またより良い環境の中で安全に過ごすことを目的とし、園舎の建替に向けた準備を進めていきます。

事業内容： 幼保連携型認定こども園 0～5 歳児 139 名

所在地： 福井市東大味町 10-1-1

管理者名： 三上登美子

足羽ワークセンター

全国障害者スポーツ大会への選手派遣と積極的応援参加

足羽ワークセンターに所属する利用者様が障害者バレーボール（知的女子）の福井県代表として選ばれ、本番に向けて一生懸命練習しました。大会では、たくさんの観客からの応援を受けて緊張した様子も見られましたが、途中出場するとスーパーレシーブも決めるなど大活躍。チームも3位まであと一歩となる4位入賞となりました。また大会期間中、多くの利用者様が開会式や県内各会場で行われた競技を観戦し、選手たちに熱い声援を送りました。



過渡期にある事業を次年度に向けて検討準備

平成 18 年の障害者自立支援法施行時、入所授産施設であった足羽ワークセンターは、13 年間で日中活動の事業所 5 か所、グループホーム 14 か所へと地域展開しました。数年前から利用者様の状態像変化や事業内容、支援体制等について、見直しが議論されるようになり、平成 30 年度には足羽ワークセンターの 1 階半分と 2 階部分が、重度障がいの利用者様のグループホームへと改修されました。工事期間中は別の場所を借りながら作業を継続しつつ、「就労支援事業のあり方」についても、足羽サポートセンターと何度も協議し、結果、次年度より自立訓練事業を廃止し、役務（清掃、介護補助）、給食（県立図書館あすわの木、県議会食堂あすわ、ワークセンター厨房）作業を中心として、就職を目指す就労移行支援事業および就労継続支援 B 型事業を、足羽ワークセンターで行うこととなりました。

次年度に向けた取組み

福井県立図書館の喫茶スペースにて「あすわの木」をオープンします。厨房を改修し、クックチル導入、HACCP 認証を目指し、利用者様が生きいきと働く場として確立します。

また愛全園の協力のもと、介護補助での就職を目指して就労移行支援事業を行います。

事業内容：自立訓練事業 12 名 就労継続支援 B 型事業 18 名

所在地：福井市梅野町 20-5

管理者名：高村 昌裕

スマイル

利用者様の意思を尊重した支援を提供する

私たち職員は利用者様の意思を形作り、受容し、実現へとつなげることが使命であると考え、日々、スマイルでは利用者様の意思を尊重した支援を提供しています。

作業提供の時にも利用者様の意思を尊重する

スマイルでは、日々の支援に作業支援を多く取り入れています。私たちが毎日働き、お金を稼ぎ、好きなものを買うというごく普通の行為は、重度の障がいの方にも実現していただきたいことのひとつです。障がいの有無にかかわらず、当たり前なのが当たり前に見える形だけではなく、意識の部分でも「共に生きる」ということの視点が必要であると考えます。



食べたい献立を自分で選んでアツアツを食べる



利用者様にとって食事は大きな楽しみのひとつです。スマイルでは、3ヶ月に1度、選択食を提供しています。選択食とは「カレーor 牛丼」「天ぷらそば or 月見うどん」など、2つある選択肢から好きな方を選んでいただき、利用者様の目の前で調理して提供する食事のことです。「目で楽しみ、香りを楽しみ、音で楽しみ、食感を楽しむ」をコンセプトに、熱いものを、自分で冷ましながら召し上がる。そういった普段あまり見られない表情を見ることができました。

年1回の研修旅行に参加する

スマイルでは年に1回、利用者様と職員で日帰りや1泊2日の研修旅行に出かけます。利用者様にとって研修旅行は1年で最も大きなイベント。今年の行き先は岐阜コースか富山コース、または嶺南コース。利用者様自身が選ぶ時の表情は真剣そのもの。日々の作業や活動を頑張るのも、この旅行があるからといっても過言ではないでしょう。

利用者様も職員も一緒になって楽しみました。



次年度に向けて

スマイルでは、自閉症スペクトラムと診断された方などの「毎日を有意義に過ごしたい」という意思を尊重した支援の充実を目指します。そのために、職員間の意識の統一を図り、日々において充実した支援を提供します。

事業内容 : 生活介護 30名

所在地 : 福井市和田東1丁目2105

管理者名 : 高村昌裕

カラフル

利用者様の健康を第一に考え、意思を尊重した支援を提供する

カラフルでは高齢となった重度障がいの利用者様の「働きたい」「生きいきと活動したい」との思いを尊重し、私たち職員はそんなお一人おひとりの思いを受容し、実現へとつなげることが使命であると考え、日々、支援を提供しています。

利用者様の健康面を第一に考え、体操や散歩を取り入れる

来所時、一人ひとりの利用者様と目線を合わせ、思いをお聴きしています。健康状態に変わりがないか確認します。毎日の日課としてラジオ体操を行い、天気の良い日には地域を散歩し、地域の方とのふれあいも大切にしています。将来を見据え、愛全園の利用者様との交流も行っています。平成30年度、愛全園地域ホールでの交流活動は17回実施しました。

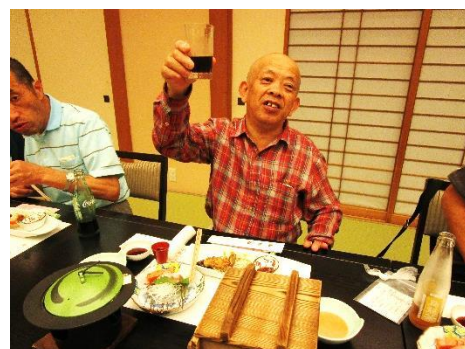


作業提供の時にも利用者様の意思を尊重する

日々の支援に作業支援を取り入れています。利用者様の「まだまだ働きたい。若い時と同じように役に立ちたい」との思いを尊重し、作業内容は利用者様自身に選択する機会を設けています。できること、やりとげた喜びを味わえるように、考えて提供しています。

年1回の研修旅行に参加する

年に1回、利用者様と職員で日帰りや1泊2日の研修旅行に出かけます。行き先は嶺南への日帰りコース、1泊2日の富山コース、そして岐阜コースから利用者様自身に選択していただき、その表情は真剣です。旅行では利用者様も職員も一緒になって楽しみ、いつもと違う表情がうかがえます。



次年度に向けて

カラフルでは、主に高齢となった重度障がいの利用者様の意思を尊重した支援のために、職員の障がい理解の向上を図り、日々において充実した支援の提供を図ります。

事業内容：生活介護 30名

所在地：福井市林町 62-3

管理者名：高村昌裕

足羽サポートセンター

福井しあわせ元気国体・元気大会2018での積極的な受注・販売への取り組み

3年前より福井国体にあわせてグッズの開発販売や行政からの国体作業受注に取り組んできました。また福井国体では積極的に活動し「はぴりゅう広場」にてグッズや飲食物の販売に取り組みました。利用者様もたくさんのお客様とふれあい、とても元気に販売に取り組まれました。この国体関係の受注・販売に取り組んだこともあり、平成30年度の就労継続支援B型の平均工賃は、24,138円となり、前年度比141%アップとなりました。



清掃業務専門コースと食堂業務専門コースの実施

清掃業務と食堂業務の専門コースを就労移行支援にて実施しました。清掃業務では愛全園の定期清掃も実施し、ワックスがけ等の作業を体験していただきながら技術を学びました。食堂業務では、調理補助や接客業務、イベント販売等に参加されました。

社会参加活動の実施

年間の社会参加活動計画を立て、旅行では県外の就労支援事業所を見学訪問し、利用者様の働く様子や販売商品等に刺激を受け、作業意欲の向上につなげることができました。その他、自主製品の販売店見学や国体プレ大会の観戦、福井しあわせ元気大会開会式の参加等を実施しました。



次年度に向けて

重度高齢化してきている利用者様が安心して活動できるような作業環境を作れるよう、作業場の見直しや整理整頓を行っていきます。

事業内容：就労継続支援B型 30名
所在地：福井市成和1丁目1009-2
管理者名：渡辺 順子

パステル

学校との連携

近年、不登校の生徒さんが増加傾向にあります。その背景に発達障がいのある方も少なくなく、実際に不登校の生徒さんの通学再開、居場所としての事業利用への環境調整など、学校と連携した取組みを行っています。平成30年度では事業利用を目的に1名の方の受入れを行い、活動内容、環境調整を実施した結果、平成31年度4月より、居場所としてパステルを利用されることが決まりました。



嫌と言える関係（支援開始の合図は「嫌」）

利用開始にあたり、パステルではすぐにさまざまなことを取り組むことはありません。パステルを利用される方で、これまでの生活で「嫌」ということができず、ストレスを溜めたり、嫌ということでの後の関係性が悪化するのではないかと不安を抱えたりと「自分の思ったこと」を言えない方が多くいらっしゃいます。そのため、利用当初は面談が活動のメインとなり、ご本人の好きな話題や気になることなどについてやりとりし、その中で「嫌と言ってもよい」という認識をもっていただけよう促していきます。※パステルでは「興味がある」ことを活動内容として捉えており、さまざまな作品を作られる方もいらっしゃいます。



自分のことを分かってほしい

この分野では「自分を知る」ということが大切とされていますが、利用者様の中には「自分を知る＝できないことが多い」とマイナスに認識されてしまう方が多い一方で「相手には自分のことを知ってほしい」という気持ち強い傾向があります。そこでパステルでは「上手く自分のことを相手に説明できるようになる」と視点や言葉を変え、マイナスからプラスの思考に切り替え、前向きに取り組める活動を行っています。



次年度に向けて

発達障がいのある方が増加している中でサポートする支援者側の能力、経験が追いつかない現状があります。次年度は所内外における研修参加や講師をお招きし、職員の質の向上を目指します。

事業内容：自立訓練（生活訓練）事業 10名 就労継続支援B型事業 10名

所在地：福井市御幸4丁目1806

管理者名：渡辺 順子

足羽学園

小規模グループケア実施

平成30年4月より8人ユニット2つ、4人ユニット2つ、計4ユニットで新たな一步を踏み出した足羽学園では、誕生日のその日に誕生日会を開催し、自分が生まれたことの喜びや他の方に祝福されることでの自己肯定感を育もうと取り組みました。ユニット内でケーキを作る・担当職員を一人占めして外食に行く・好きな食べ物を買って来て食べる等、個々の思いを聞きながら、思いおもいの誕生日を楽しみました。どの子どもみんな素敵な笑顔の誕生日となりました。その他にも少人数での外出を計画したり、おやつやカレーを作ったり、そうめん流しをしたりといろんな経験を積みました。



子ども同士のつながり～酒生小学校との交流会～

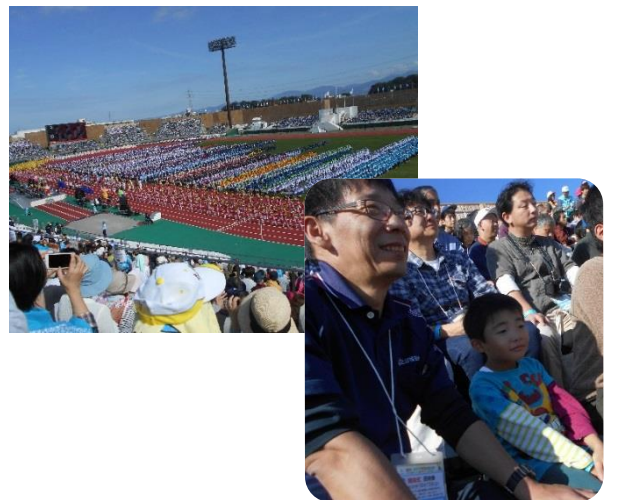
当園の伝統的取組みでもある、酒生小学校との交流事業を平成30年度も11月に小学4年生と行いました。事前に出前講座で障がい特性をお伝えする場を作っただき、当日は児童の皆さんが考えて下さったゲームを通して交流を行いました。最初はお互い遠慮がちでしたが交流を通して距離が縮まり、楽しいひと時を過ごすことができました。

最後にプレゼント交換でプレゼントをもらって、嬉しそうな表情を浮かべる子どもたちでした。



皆で歓迎～福井で開催「障スポ」～

平成30年度は、福井で2度目の国体および障がい者スポーツ大会が開催されました。またとないこの機会に利用者様も障スポの開会式を見に行きました。全国の選手団入場を手拍子で歓迎の意を表し、わくわく、ドキドキの高揚感を体験してきました。法人内の職員も国体に出場していたので職員は観戦に行き、応援しました。



次年度に向けて

- 子どもたち一人ひとり、その年代に合わせた療育支援に取り組みます。
- 自らの思いを伝え、その思いが伝わる、叶う体験を積むことで意思表示と自己決定支援に取り組みます。
- 家族の抱える思いに寄り添い、子どもを通して共に考え、子どもの育ちをお互いに喜び合える関係作りに取り組みます。

事業内容：福祉型障害児入所施設20名 短期入所4名

所在地：福井市宿布町19-46-1 管理者名：嶋田 富士男

足羽更生園

第一期新築工事実施

平成30年8月より利用者様の居住環境整備として、新築工事に着手しました。8月に入札、9月より解体工事が始まり、解体の終わった11月に地鎮祭を執り行い安全を祈願しました。工事期間中は限られた居住スペースでの生活となっていますが、過ごしやすい空間づくり、スケジュールや視覚支援、気分転換としての個別誕生日会外出や各寮での外出など工夫しながら取り組みました。建物ができていく様子を感じながら新しい生活に胸を膨らませています。



備えよ！防犯訓練

平成30年7月に福井県警察署生活安全課の2名の方に来園していただき、防犯訓練を実施しました。これは、私たちが忘れてはいけない「津久井山ゆり学園」の事件を我が事としてとらえ、利用者様の安全を守るためにも毎年実施している訓練の1つです。県警の方の迫力に圧倒されながらも真剣に訓練に取り組みました。終了後の反省会では対処方法をご指導いただき、職員にとっても学びとなりました。あつてはならないことですが、もしもに備え、今後も継続した取り組みを行っていきます。



支援について学ぶ～SV研修～

平成27年度より取り組みが始まった研修で、京都よりスーパーバイザーとして講師をお招きし、強度行動障害を含む自閉症支援について1年を通じたケース検討会を行っています。平成30年度も3事例をあげ、アドバイザーに意見をいただきながら、支援について検討・実行・分析・改善を繰り返し、支援を行いました。職員だけでは行き詰まることもありますが、違った視点から意見をいただくことで突破口がみつき支援の幅が広がっています。

法人内各拠点との連携～地域移行～

新築工事と並行して、利用者様の地域移行も進めてきました。昨年度個別支援懇談会の中で移行に関する意識確認を実施し、それに基づいてリアン・日中活動拠点・地域生活支援センターと連携を図りながら取り組みました。宿泊および体験実習を通して、利用者様が不安なく移行できるよう支援し、グループホームへ14名、生活介護事業に15名、就労B型事業へ1名の移行ができました。

次年度に向けて

- 第二期工事を遅滞なく進め、令和2年3月末、全面完成を目指し取り組みます。
- 新たな居住棟完成を受け、利用者様の個々に合わせた暮らしの提供を目指し、利用者様の豊かな生活を築けるよう取り組みます。

事業内容：施設入所支援80名 生活介護80名 短期入所2名 日中一時支援5名

所在地：福井市宿布町19-46-1

管理者名：嶋田 富士男

あすわ相談支援事業所リアン

利用者様・ご家族の希望実現、個々のケースから見える地域課題の解決に向け取り組む。

サービス等利用計画の作成を通して、利用者様の希望・尊厳・権利擁護の視点に立ち、利用者様の希望する生活の実現に向けて、福祉サービスだけではなく、地域資源の活用、地域との交流を図れるよう支援してきました。

障がい種別を問わず児童～重度・高齢になる利用者様まで幅広く対応

一人ひとりの希望を聞き取り、どんな生活がしたいのか？どんな所に困っているのか？どんな支援が必要なのかを考え、サービス等利用計画・障害児支援利用計画に反映させました。

大事なことは途切れないこと・変化に対応していくこと・人生の伴走者になること

ライフステージ（就学・卒業・就職など）の変化だけでなく、希望の変化、つまりきも多々あります。そんな時に、相談支援専門員は利用者様の変化に気づいていくことが重要になります。

リアンでは、定期的な訪問やモニタリングを増やし、利用者様との信頼関係を築き、思いを汲み取れるよう取り組んできました。

【相談支援専門員 5 名を配置し、特定事業所加算Ⅱ・行動障害支援体制加算・精神障害者支援体制加算を取得しました。】

【利用契約数 422 名・計画作成数 309 件・モニタリング作成数 723 件を作成しました。】

入所施設や長期入院から「地域で生活したい」を叶えるために「見て」「聞いて」わからないことは「体験」して選択する

地域で暮らしたい利用者様の希望を汲み取り、面談・見学・日中活動・宿泊体験をしながら、地域生活への移行を支援しています。平成 30 年度は施設からグループホームに移行した利用者様は 14 名、施設から自宅に戻られた利用者様が 1 名です。そして、地域での新しい暮らしを支え、困りごとへの対応、安心して生活ができるよう地域定着支援を行っています。



次年度に向けて

一人ひとりの課題は「わがままでも」、しかし課題が集まれば「地域のニーズ」

制度の狭間やマンパワーでは解決できない課題に相談支援専門員は直面します。しかし、より多くの利用者様やご家族の困りごとを知るのも相談支援専門員であり、個別のケースを通して見えてきた課題を、解決していけるよう地域課題として自立支援協議会に提言していきます。

事業内容：計画相談支援 障害児相談支援 地域移行支援 地域定着支援

所在地：福井市大手 3 丁目 12 番 20 号

管理者名：高村昌裕

あすわ地域生活支援センター

一人ひとりに合った家

利用者様が年齢を重ねても、障がいの重い方でも、地域で安心して暮らせる居住環境を整備するため、平成 29 年度よりプロジェクトチームを立ち上げ、準備と検討を重ねました。平成 30 年 6 月より、高齢の利用者様向けの住まいの場「きらり」の開設工事を開始し、9 月 1 日に開所しました。

さらに 8 月からは、足羽更生園利用者様の地域移行推進を受けて「グループホームあすわ」を 3 ユニットに分け、より小規模で家庭的な環境に整備するという目的のために、改修工事にも取り組みました。

平成 31 年 4 月 1 日、足羽更生園より 14 名の方を受け入れ、新たな形でのスタートを切るようになります。



一人ひとりが主人公

平成 30 年 10 月に行われた「第 18 回全国障害者スポーツ大会 福井しあわせ元気大会」での活躍を目指す選手の練習参加支援に積極的に取り組み、余暇活動、社会参加活動の場を広げてきました。結果、利用者様 8 名の方が試合に臨み、善戦しました。

選手以外の利用者様も、開閉会式の観覧や各種競技の応援に向き大会を盛り上げました。また虐待防止についてのセミナーや防犯教室、スマートフォンやインターネット被害対策教室、命や性について学ぶセミナーなどの参加をサポートし、利用者様自身が学ぶ機会を増やすための取組みも行いました。



地域の一員として

機関誌「愛道」のご近所への配布や地域の行事（足羽川ふれあいマラソン、清掃活動、体育祭、祭り等）に参加し、地域の方々との交流を図りました。ボランティア募集のチラシ作成と地域配布にも取り組み、外出に付き添って下さるボランティアが徐々に増えてきました。またボランティアの方を講師として招き、編み物教室や大正琴教室をグループホーム内で開催し、交流を重ねてきました。



次年度に向けて

望む暮らしの実現に向けて、一人暮らしやグループホームを出て暮らすことを希望する利用者様への自立支援を行います。大人数のグループホームたんぼぼの少人数化を進めます。

利用者様の余暇活動の充実を図ります。

事業内容：共同生活援助事業（合計 143 名）

あすわ 24 名（3 ユニット）、たんぼぼ 18 名、さつき 12 名、はばたき 8 名（2 ユニット）とうごう 10 名、こもればい 10 名、きらり 8 名、ほほえみ 6 名、そよかぜ 4 名、つばさ 4 名、さくら 12 名、ひまわりの家 10 名、なごみ 11 名（2 ユニット）、ひだまり 8 名（2 ユニット） 短期入所（合計 4 名） あすわ 2 名、ひまわりの家 2 名

所在地：福井市梅野町 20-5

管理者名：吉村宜利子

あすわ児童発達支援センター



【児童発達支援】

フレンズあすわの児童発達支援では、地域と共に育ちをサポートすることを念頭に、個々のニーズに寄り添いながら支援を実施してきました。併行通園先（こども園、幼稚園等）に所属しながら、週に1~2回フレンズあすわに通所することで、小集団の特色を活かしつつ、個々の発達に合わせた支援を行いました。年度途中にこども園等と併行通園するようになった利用者様は4名で、利用する中で必要に応じ、併行通園先と情報交換を行ったり、他の関係機関も含めた会議を設けたりして、課題解決に取り組んでいきました。また5名の方がフレンズあすわを終了し、地域移行を進め、こども園等に通園するようになりました。必要に応じて、保育所等訪問支援を活用していただきながら、安心して地域で育てられるサポートを行っています。

「地域と共に」

関係機関との連携を重視し、子どもの育ちをサポート



【放課後等デイサービス】

地域の小学校(特別支援学級を含む)や特別支援学校などの関係機関と協議しながら、学齢期におけるさまざまな課題について共有し、支援方法の統一や本人、保護者のサポートに取り組みました。フレンズあすわでは延べ11回、フレンズみゆきでは延べ4回実施し、個別支援計画への反映や日々の支援に具体的に取り入れていきました。



次年度に向けた課題

【児童発達支援】

全国的に医療的ケアの必要な子どもが、安心して支援を受けられる場所が求められています。平成31年度から看護師を配置し、新たな地域ニーズに対応できる体制を構築していきます。

【放課後等デイサービス】

平成30年度の報酬改定に伴い、新たな基準が設けられました。支援の必要度が高い利用者様が稼働の半数以上利用する事業所とそうでない事業所とに区分され、フレンズあすわとフレンズみゆきについては後者と区分されました。その影響もあり、稼働については前年度同等でしたが、収益については減益となっています。経営改善に向けて地域ニーズの把握に努めながら計画的に実施していきます。

- 子ども発達支援センター フレンズあすわ
事業内容：児童発達支援事業：10名 保育所等訪問支援
放課後等デイサービス：18名 短期入所：5名
地域活動支援センター
所在地：福井市大和田1丁目1607 管理者名：高村昌裕
- フレンズみゆき 事業内容：放課後等デイサービス：10名
所在地：福井市御幸4丁目106-2 管理者名：高村昌裕



利用者様の自尊心を最後まで大切にできる科学的介護を全部署挙げて実践

利用者様の「我がままに生きたい」を叶えるために、介護職・看護職・機能訓練指導員・生活相談員・栄養士がそれぞれの専門性を発揮し、水分提供・歩行訓練・食事管理・在宅復帰などのアプローチを行っています。年間目標である数値達成にまでは至っていませんが、取組継続を行うことで、利用者様の身体状況(ADL)は確実に改善しており、生活の質(QOL)向上が図られております。



「愛全園祭」や「愛 de つながる会」など各種催しを地域と共に行う



常に「地域と共に」を意識した催し企画を行い、地域を招く取組みとしては、地域住民に事業所を知っていただく、興味をもっていただくため、各種催しに参加していただきました。年間ボランティア実績は748名、年間実習受け入れ人数は67名でした。

地域に出向く取組みとしては、4月から11月までの第4水曜日に地元花壇の清掃活動を行いました。

職員が働きやすい職場となれるよう介護補助機器の積極的な導入を行う

職員の介護負担軽減のため、介護リフトなど、補助機器の積極的導入を行いました。介護リフト導入を行った以降、腰痛のために離職した職員はおりません。職員教育にも重点を置き、キャリア段位制度導入を行い、職員個々の介護技術の再確認を行う取組みを始めました。また有給休暇取得の計画的履行に関しては、次年度を見据え取組みを行いました。すべての職員が取得できるまでには至りませんでした。今後の課題が見えた取組みとなりました。



次年度に向けて

- ・科学的介護の実践をさらにスピード感をもった取組みとする。
(目標数値の達成)
- ・地域と共同で地域に出向いた催しを実施する。
(花見たのしもう会の実施・憩いのサロンの充実)
- ・職員介護ロボットや記録補助機器などの導入を積極的に行い、より働きやすい職場環境の整備を行う。



事業内容：ユニット型介護老人福祉施設 60名・従来型介護老人福祉施設
30名・短期入所生活介護 35名・通所介護 25名・
居宅介護支援事業所認知症対応型共同生活介護 9名・地域支援事業
所在地：福井市丸山町 40-7 管理者名：滝波正興

利用者様と共に…「介護力レベルアップ研修会」への参加と実践で自立支援を進展



排泄を支援するうえで、利用者様の尊厳を守る介護手法として水分摂取量、トイレでの排泄率の目標を立て、6年目の取組みを継続しています。平成30年度は作業療法士が新たに加わり、専門職種での支援体制が一層充実し、目標を上回る達成率につながりました。年々の積み重ねによる達成率の向上により、福井県要介護度維持改善事業の評価を得て、栄えある表彰を受けるに至っています。

また認知症ケアとの関連では「ユマニチュード（穏やかな暮らしへの支援方法）の勉強会と活用の振り返りにより安心・安全への支援力向上に努めています。

利用者様の自尊心への配慮、不快の軽減等利用者様に寄り添った介護の進展は、地域からの苑への信頼に足る介護の確かさ、職員の誇り・やりがいにつながるよう可能性を高めていきます。

地域と共に…地区高齢者の元気を後押し

健康志向社会を反映し、リハビリ機器の活用と集いの場の地域開放が盛況を極め、たくさんの方々が来苑されました。心ワクワクの遠足、新年会も企画しました。地域に出向いての料理教室（イラスト）、地域支援訪問活動、地区デイホーム支援等々介護予防への意識啓発と共に高齢者の元気を後押ししています。利用者様も介護力向上の成果で地域に出かけようと、お手製の雑巾を小学校やこども園に寄贈させていただき、生きる力となりました。



次の50年への「高齢者介護」発展は法人内連携で足元を固めて事業を拓く



少子高齢社会、人口減社会で求められる「地域共生型」施設。

その実現には法人介護分野事業の大きな共通テーマである自立支援、認知症の予防とケアをはじめ職員教育・研修、地域貢献等々施設（事業所）や地域が抱える先の見えない課題が山積しています。

平成30年度はまず次世代育成型の「連携会議」で人材育成をメインに、職務の統一プログラムを検討しましたが今後の継続課題としています。

さらに施設内（施設間）においても部署間、専門職種による「サービス向上連携会議」を開き、意識・情報共有の連携を強化した内容で利用者様支援につなげるよう努めました。

次年度に向けて

介護力レベルアップ研修会の成果が利用者様の日常生活に反映した「見える化」事例を検討し、一人ひとりのQOL（生活の質）の維持・向上に向けた自立支援の進展を目指します。

法人理念の具現化。持てる機能を高め地域貢献に継続努めます。次世代育成型「連携会議」は利用者様の「尊厳・寄り添い」を次世代の感性と共に時代への適合を切り開く土台と位置づけていきます。

事業内容：介護老人福祉施設 59 名、（介護予防）短期入所 15 名、地域密着型介護老人福祉施設 18 名

（介護予防）通所介護 20 名、福井市総合事業 10 名、（介護予防）認知症対応型通所介護 12 名

所在地：福井市梅野町 20-7

管理者名：岩本昌雄

グループホーム美山

利用者様がいつまでも住みなれた地域の中で健康に生活するため、美山地区介護事業者連絡会を開き、自施設だけでなく地域住民や地域包括支援センター、他事業所等と連携を図り、多方面から支援させていただいてきました。「地域密着型施設」として、地域とのつながりを大切にしながら地域に信頼される施設を目指しています。

地域貢献「地域と共に」～地域に出向く～

美山地区の保育園・小中学校行事への参加、地区の祭りへ出向くなど、年間を通じて地域との交流を活動の中に多く取り入れました。利用者様が施設を利用しながら社会資源とかかわりをもつことで、生きがいや生活のメリハリを感じることができています。

また利用者様も地域住民の一人として“地域共生社会”への大きな役割を果たすため、フラワーロードの清掃や美山公民館に設置されているプランターの水やりを行いました。



下宇坂小学校マラソン大会応援



公民館前プランターの水やり
「RUN 伴」



認知症の方を支える地域づくり

～地域を招く～

健康推進とボランティア開拓のため地域交流ホールを開放してカフェを開催し、介護相談会や調理による「食育」をテーマにした講習会を地域住民に向けて行いました。

また地域一体で利用者様を支えていくためにも、自然災害時に備え、民生委員の方や近隣住民の方に利用者様の安否確認等の協力を得て在宅生活を支えました。



カフェ開催の一コマ



地域の子供たちを招いた収穫祭の一コマ

サービスの質向上「利用者様と共に」～外部評価・接遇研修を経て～

小規模多機能居宅介護事業所では、2ヶ月に1回運営推進会議にて外部評価を行い、事業所の提供するサービスの改善計画や課題を見出し、職員間で活発に意見交換して毎年新たな目標を掲げてきました。

また職員会議において年3回接遇研修を行い、利用者様も地域の方も笑顔で過ごせる施設づくりに努めました。研修では職員自ら日々の言動を振り返り、反省点、改善点を明確にし「笑顔で明るいチームワークづくり」に取り組んできました。

次年度に向けた取組み

地域資源を有効に活用し幅広くサービスが提供できるよう、施設だけで利用者様を支えるのではなく、地域とのつながりがとても重要です。そのためにも新規ボランティアを開拓し、地域一体となって事業を展開していきます。

事業内容：認知症対応型共同生活介護：定員9名 小規模多機能型居宅介護事業所：定員29名

その他緊急時対応ショートステイ各1名

所在地：福井市美山町6-1

管理者名：岩本 昌雄

福井大東包括支援センター

地域を知る取組みから地域と共に考える取組みへ

地域包括支援センターを受託してから3年が経過し、地域実態把握のため、個別訪問目標件数を毎年300件掲げ、取り組んできました。徐々に地域事情が把握される中、地域住民を巻き込んだ事例検討会や地域ケア会議・介護普及講座など、地域で高齢者を支えるコミュニティ形成を確実に取り組んでいます。また民生委員や福祉委員の方々との連携も欠かさず、地域相談場所の構築にあたっています。



認知症に対する理解普及促進と安心して生活できる地域づくりの充実



地元企業や学校など、さまざまな場所へ伺い、認知症の理解に関する普及講座を開催しています。
(地元企業1回・小学校1回・高校3回・児童館1回・高齢者サロン1回)

また高齢者が安心して生活できる地域づくりのため、高齢者虐待防止研修や消費者被害防止研修など、関係機関と連携した取組みにも力を入れました。

福祉専門職の充実と地域づくり専門職への取組み

社会福祉士や介護支援専門員(ケアマネ)・保健師など適正な配置を行い、専門研修の派遣を行い、福祉専門職としての能力向上を図りました。また地域コミュニティ形成を行うために、各種会議や研修(地域ケア会議や地域連携会議・介護普及講座)の企画立案、実施を各職員が行うことで、関係者との関係構築を行える機会となりました。



次年度に向けて

- ・地域福祉力向上のための研修会や会議の開催(介護普及講座や介護予防教室の充実)
- ・認知症のさらなる理解普及促進(ひとり歩き模擬訓練の実施)
- ・専門職の配置充実(介護支援専門員の増員配置と次世代を担う保健師の配置)



事業内容：地域包括支援事業
介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業
所在地：福井市丸山町40-7
管理者名：滝波正興

福井市障がい者基幹相談支援センター

平成 29 年度より福井市から福井市内全域での障がい者相談支援を実施しています。主な取組みは

- ①「総合的・専門的な総合支援」②「地域の支援体制の強化」③「権利擁護・虐待防止に関する相談」④「福井市障がい者自立支援協議会（以下、協議会）の運営」⑤「地域移行・地域定着の促進」です。

協議会の運営と個別調整会議の活性化で地域課題を見える化

障がい者の制度や地域の課題を考えるには、個別の課題を考え地域に何が不足し、制度化すべきものや横断的に検討していくべきものは何かを見極め整理することが大切です。平成 30 年度は、地域課題の整理の結果①「障がい者の相談支援体制について（計画相談支援や障がい児相談支援の現状把握）」、②「障がい者における移動について（通所や通学等）」を重点的に取り組み、相談支援専門員を対象に実態調査を実施しました。また平成 30 年度上半期において、これまで煩雑であった地域課題整理について分かりやすく絞込みをし、次年度に「何をどこがどうする」等を協議しました。

福祉フォーラムを通して共生社会への関心を向上



福祉を推進・啓発するにあたり、障がいの関係機関や医療機関だけで推進することはできません。当然、地域社会（施設やグループホームも地域資源の 1 つです。）において地域住民の方の協力やふれあいなしで障がい当事者の方の生活は成立しにくいものです。当センターでは平成 29 年度から「共生」というテーマで福祉フォーラムを開催することで、市民に少しでも共生の理解と和が広がっていければという理念で実施しています。

平成 30 年度は、福井県が施行した「障がいがある人もない人も幸せに暮らせる福井県共生社会条例」をもとに県障害福祉課より条例の内容をお話しいだいた後に、教育より 1 機関（教育の推進）・医療より 1 機関（医療サービスの提供）・当事者団体より 2 機関（権利擁護の推進、文化芸術活動の振興等）のパネリストをお招きし、共生社会の活動推進報告等を実施した。平成 30 年度は約 80 名の参加があり、各パネリストの報告を受け、条例に加え実践報告があり良かった。「その人らしく生きる」や「自分が何をすべきか考えさせられた」等の意見や感想が聞かれ、今後も継続していきます。

次年度に向けて

① 『協議会事務局として活性化を推進』

各専門部会がより多くの参加者のもと、地域課題の解決に向けた議論や取組みの共有が図れるようにします。また協議会にさらなる関心や参加を増やすために、当センターのホームページの構成を変え、見やすいものにしていきます。

② 『地域相談支援体制の強化』

相談支援事業所の課題や問題提起を受け止め、協議しエンパワメントする場作り、安定した運営のもと質の高い計画作成に取り組めるよう研修を充実させます。

事業内容：基幹相談支援センター業務、障がい者虐待防止センター業務、地域生活支援拠点業務

所在地：福井市大手 3 丁目 12 番 20 号 ホテルフジタ 2 階

管理者名：高村 昌裕